

新 名 誉 会 員



作 井 誠 太 君
(東京工業大学名誉教授)

君は、昭和5年3月東京大学工学部冶金学科卒業、財団法人理化学研究所に勤務した後昭和16年東京工業大学に移り助教授、教授を歴任、昭和42年東京工業大学名誉教授となった。その後電気通信大学教授、東京理科大学教授を歴任している。

この間鉄鋼の塑性と熱処理、殊に高速荷重下の塑性変形について多数のすぐれた研究を行なった。

すなわち世界で最大容量、最高速度の衝撃引張試験機と衝撃振り試験機の製作を主唱しかつ建設し、シャルピー試験機の計測化と相まつて、鉄鋼の衝撃における機械的性質の多数のデータを提供し、さらに一步を進めて衝撃試験を材料力学的に検討し、かつ実験結果を物理冶金的に考察することに努力した。その結果鉄鋼の衝撃試験結果の大部分は、超高速荷重の場合を除いて、塑性変形を熱活性化過程として解析することにより説明しうることを明かにした。これは衝撃試験に塑性の転位論を取入れたもので、その着想はわが国はもちろん世界においても先がけている。

また、材料力学的な立場からの衝撃試験の正確な測定が冶金学的考察に先行しなければならないことを唱え、独特の水晶-内部加熱型陰極線オシログラフの測力系から発展して針金歪計の実用化に努力した。さらに鉄鋼の衝撃試験の物理冶金学的研究には鉄の単結晶の衝撃試験が必要なことを主張し組織的系統的研究を行なった。

本会に関しては、昭和34年以来引続き理事、評議員として事業の遂行に当るほか、2回に亘り副会長に選ばれ、特に昭和49年から2年間は会長に就任して協会の発展、鉄鋼技術の向上、国際交流の推進に尽力した。